



(題字 時澤 貢 学長)

第415号  
(平成11年 7 月号)

7 月のトピックス

◇10日 第51回北陸地区国立大学体育大会が開会



▲ 選手宣誓

◇12日 五福キャンパスの一斉清掃を実施



▲ 先頭に立ち清掃する時澤学長

◇14日 大学運営改善特別講演会を開催



▲ 講演する文部省合田大学改革推進室室長補佐

◇22日 高等学校との入試に関する懇談会を開催



▲ 能登谷学長補佐から開会挨拶



## 目 次

関係法令	3	学内諸報	
学内規則		◆ 第51回北陸地区国立大学体育大会が開会	23
◆ 富山大学セクシュアル・ハラスメント等の 防止に関する指針の制定	3	◆ 五福キャンパスの一斉清掃を実施	23
◆ 富山大学水質保全委員会規則の制定	8	◆ スペース・コラボレーション・システム事 業の推進体制が整う	24
◆ 富山大学廃液処理施設規則の全部改正	9	◆ 工学部が日本工学教育協会業績賞を受賞	24
諸会議	10	◆ 地域共同研究センターが交流振興会の談話 会を開催	25
学 事		◆ 高等学校(進路指導担当教諭)と大学との入 試に関する懇談会を開催	25
◆ 平成11年度文部省在外研究員派遣者の決定	12	◆ 海外渡航者	26
◆ 大学運営改善特別講演会を開催	12	職員消息	
◆ 平成12年度入学者選抜要項を公表	12	◆ 住所変更	28
人事異動	22	◆ 改 姓	28
		主要行事	28



▲ 公開講座「いろいろな流れの科学」開講式  
(7月27日工学部大会議室)

## 関 係 法 令

### （法 律）

- 国家公務員法等の一部を改正する法律（83）（平成11. 7. 7 官報号外第128号）
- 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（86）（平成11. 7. 13 官報第2666号）
- 内閣府設置法（89）（平成11. 7. 16 官報号外第135号）
- 国家行政組織法の一部を改正する法律（90）（同上）
- 文部科学省設置法（96）（同上）
- 中央省庁等改革のための国の行政組織関係法律の整備等に関する法律（102）（同上）
- 独立行政法人通則法（103）（同上）
- 独立行政法人通則法の施行に伴う関係法律の整備に

関する法律（104）（同上）

### （規 則）

- 人事院規則 9－2（俸給表の適用範囲）の一部を改正する人事院規則（人事院 9－2－33）（平成11. 7. 1 官報第2658号）
- 人事院規則 9－8（初任給，昇格，昇給等の基準）の一部を改正する人事院規則（同 9－8－39）（同上）
- 人事院規則 9－17（俸給の特別調整額）の一部を改正する人事院規則（同 9－17－74）（同上）
- 人事院規則 9－49（調整手当）の一部を改正する人事院規則（人事院 9－49－12）（平成11. 7. 13 官報第2666号）

## 学 内 規 則

### 富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針の制定

#### 富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針の制定理由

本学における，セクシュアル・ハラスメント等の人権侵害及び性差別の防止に関し，必要事項を定める。

富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針を次のとおり制定する。

平成11年 7 月16日

富山大学長 時 澤 貢

#### 富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針

##### （目 的）

第1条 この指針は，セクシュアル・ハラスメント等の防止及び予防のための措置並びにセクシュアル・ハラスメント等に起因する問題が生じた場合に，適切かつ迅速な対応を求める権利を保障するための措置及び救済に関する必要な事項を定めることにより，富山大学におけるすべての学生及び職員が対等な個人として尊

重され，公正で安全な環境のもとで，修学，就労，教育及び研究ができ，セクシュアル・ハラスメント等の人権侵害や性差別がおきないようにすることを目的とする。

##### （定 義）

第2条 この指針における「セクシュアル・ハラスメント等」とは，修学，就労，教育又は研究上の関係を利用してなされる次に掲げる行為をいう。

(1) 性的要求への服従又は拒否を理由として，修学，就労，教育又は研究上の利益又は不利益に影響を与

えること。

- (2) 相手が望まないにもかかわらず、修学、就労、教育又は研究上の利益又は不利益を条件として、性的誘いかけを行うこと又は性的に好意的な態度を要求すること。
- (3) 性的言動及び掲示等により、不快の念を抱かせるような環境を作り出すこと。
- (4) その他不当な言動等により、修学、就労、教育又は研究上の不利益を与えること。

2 前項の具体例は、別表のとおりとする。

(相談体制)

第3条 セクシュアル・ハラスメント等に関する相談に対処するため、相談員を設ける。

- 2 相談員は、富山大学セクシュアル・ハラスメント等対応委員会（以下「委員会」という。）の委員をもって充て、必要な研修を受けなければならない。
  - 3 相談員は、相談を申し出た者のプライバシーを厳守し、相談の状況を委員会に報告しなければならない。
- (委員会)

第4条 セクシュアル・ハラスメント等に対応するため、委員会を置く。

- 2 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
  - (1) 各学部の教員 男性女性各1人
  - (2) 保健管理センター教員 2人
  - (3) その他職員 男性女性各若干人
- 3 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員会に委員長を置き、委員の互選とする。
- 5 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 6 委員会は、委員の過半数が出席しなければ開会できない。議事は、出席者の3分の2以上をもって決する。
- 7 委員長は、必要がある場合は委員会の承認を得て、委員以外の者の出席を求めることができる。

(委員会の任務)

第5条 委員会の任務は、次の各号に掲げる事項とする。

- (1) セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する研修・啓発
- (2) セクシュアル・ハラスメント等に関する実態調査・公開
- (3) セクシュアル・ハラスメント等の相談に関する保護・救済
- (4) セクシュアル・ハラスメント等の相談に関する事実調査

(5) 助言・指導その他の措置を必要と認めた場合の当該部長への要請

(6) 処分・改善その他の措置を必要と認めた場合の学長への報告

(7) 公開する報告書の作成

(8) その他セクシュアル・ハラスメント等の防止に關すること

(調査委員会)

第6条 委員会は、セクシュアル・ハラスメント等に関する事実調査のため、調査委員会を置くことができる。

2 事実調査に当たっては、被害者の人権に配慮しつつ、関係者のプライバシーを厳守し、迅速かつ公正に対処しなければならない。

3 調査結果については、委員会に文書で報告しなければならない。

4 調査委員会は、委員会の構成員若干人をもって充てる。

5 調査委員会に委員長を置き、委員の互選とする。

6 調査委員会委員長は、必要がある場合は調査委員会の承認を得て、委員以外の者の出席を求めることができる。

(措置)

第7条 学長は、委員会の報告に基づき必要な措置を講じなければならない。行為者が職員の場合は、関係法令の規定に基づき必要な措置をとらなければならない、行為者が学生の場合は、当該学生の処分について、当該学部に付託しなければならない。

(公開)

第8条 懲戒処分が確定した場合に、その処分との関連性が認められる範囲での事実関係を公開しなければならない。

(補則)

第9条 この指針の運用上必要な事項については、別に定める。

(庶務)

第10条 委員会に関する庶務は、庶務部人事課において処理する。

附 則

1 この指針は、平成11年7月16日から実施する。

2 この指針施行後最初に任命される第4条第2項第1号の委員のうち半数の委員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、1年とする。

3 この指針によるセクシュアル・ハラスメント等の防

止については、この指針の施行後 2 年を目途として、この指針の施行の状況を勘案し、その全般について検討が加えられ、その結果に基づいて必要な措置が講ぜられるべきものとする。

別表（第 2 条第 2 項関係）

- 1 「性的要求への服従又は拒否を理由に修学，就労，教育又は研究上の利益又は不利益に影響を与えること」とは、例えば次の行為を含む。
  - ① 個人的な性的要求への服従又は拒否を，人事，労働条件の決定又は業務指揮に反映させること。
  - ② 個人的な性的要求への服従又は拒否を，教育又は研究上の指導又は評価及び学業成績に反映させること。
- 2 「相手が望まないにもかかわらず，修学，就労，教育又は研究上の利益又は不利益を条件として，性的誘いかけを行うこと又は性的に好意的な態度を要求すること」とは、例えば次の行為を含む。
  - ① 人事権・業務指揮権行使，教育又は研究上の指導又は評価によって利益・不利益の与奪を想定させる性的働きかけをすること。
  - ② 業務遂行に乗じて相手への性的な関心の表現をすること。
  - ③ 立場を利用して，執拗に又は強制的に性的行為に誘ったり，交際の働きかけをすること。
  - ④ 立場を利用して，強引な接触又は性的な行為を行うこと。
  - ⑤ 立場を利用して，性的魅力をアピールするような服装や振る舞いを要求すること。
- 3 「性的言動及び掲示等により，不快の念を抱かせるような環境を作り出すこと」とは、例えば次の行為を行うことを含む。
  - ① 仕事の途中に，相手の性的魅力や自分の抱く性的関心にかかわる話題で妨害するなど，正常な業務の遂行を性にかかわる話題又は行為で妨害すること。
  - ② 性的に不快感をもよおすような話題，行動及び状況を作るような次の行為を行うこと。
    - イ 相手が返答に窮するような性的又は卑猥な冗談をいうこと。
    - ロ 職場又は研究室に猥褻な図画を貼り，扇情的

な雰囲気を作ること。

- ハ 卑猥な雑誌，映像，写真又は文書を見ることを強要すること。
- ニ 懇親会又はコンパ等のつきあいで，集団で卑猥な行動をとること。
- ホ 性に関する悪質な冗談やからかいを行うこと。
- ヘ 相手が不快感を表明しているにもかかわらず，その場からの離脱を妨害すること。
- ト 相手の身体を上から下まで長い間じろじろ眺めること又は目で追うこと。
- チ 相手の身体（肩，背中，腰，頬又は髪等）に意識的に触れること。
- リ 意図的に性的な噂をながすこと。

- 4 「その他不当な言動等により，修学，就労，教育又は研究上の不利益を与えること」とは、例えば次の行為を行うことを含む。
  - ① 被害を申し出た者又はその他の関係者に対し，脅迫的又は威圧的な言動を行うこと。
  - ② 職務上の地位を利用して，職場又は研究室等において不当な行為を行うこと。

富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針の運用について

第 1 条関係

- 1 「学生」とは，児童，生徒，学生，聴講生，研究生その他富山大学において修学する者をいう。
- 2 「職員」とは，教員，事務職員，技術職員，非常勤職員，委託契約職員その他富山大学において就業する者をいう。
- 3 「セクシュアル・ハラスメント等」とは，いわゆるセクシュアル・ハラスメントのほか人権侵害行為を含むものをいう。
- 4 「対応」とは，修学上又は就労上の地位を利用した交際，性的関係の強要又は人権侵害に対する拒否，抗議又は苦情の申出等の行為をいう。
- 5 「適切かつ迅速な対応を求める権利を保障するための措置及び救済」には，当該部局等の監督者（学生・職員を事実上監督していると認められる地位にある者）の協力を含むものとする。

第 2 条

第 1 項関係

「セクシュアル・ハラスメント」とは、異性間のみならず同性間の行為も含み、その認定に際しては、被害者の受け止め方を重視するものとする。

#### 第1項第1号関係

- 1 本号は、性的要求への服従又は拒否を理由として、実際に何らかの利益又は不利益が与えられていることを要件とする。
- 2 「性的要求」とは、被害者との性的関係を要求することをいい、第2号の「性的誘いかけを行うこと」・「性的に好意的な態度を要求すること」と同義である。
- 3 性的な要素の認定に際しては、被害者の受け止め方のほか、直接立ち会った第三者の受け止め方、それが特定の個人や性別に限定されて行われていること、繰り返し行われていること等を考慮して、総合的に判断するものとする。
- 4 「性的要求への服従又は拒否」と「修学、就労、教育又は研究上の利益又は不利益」との関係の認定に際しては、性的要求への服従又は拒否以外の正当な理由があることについて、委員会は加害者とされる側に十分な説明を求めることとする。
- 5 「性的要求」は、加害者が直接要求した場合のほか、第三者が加害者の要求を取り次いだり、加害者の意を汲んで要求する場合も含まれ、その場合には、この第三者も責任を問われるものとする。
- 6 「利益もしくは不利益」には、次のようなものを含むこととする。
  - (1) 進学、進級、成績評価又は教育研究上の指導を受ける際の取扱いにおける利益・不利益
  - (2) 昇任又は配置換等の任用上の取扱いや昇格、昇給又は勤勉手当等の給与上の取扱い等に関する利益・不利益

#### 第1項第2号関係

- 1 本号は、実際にはまだ利益・不利益が与えられておらず、かつ性的関係を要求する行為がそれらと関連づけられていると判断されることを要件とする。
- 2 「性的に好意的な態度を要求する」とは、性的な要素を持つ行為が行われた際に、それを拒否しにくい状況が存在すれば足りることとする。
- 3 「性的誘いかけを行うこと又は性的に好意的な態度を要求する」行為と「修学、就労、教育又は

研究上の利益又は不利益」との関係の認定に際しては、被害者の側に利益又は不利益を与えられると受け止めるに足る相当な理由が認められるか否かを基準とする。

- 4 「相手が望まない」行為であったことの認定に際しては、被害者がそのことを表明していたか否かにかかわらず、被害者が意志を表明しにくい状況にありその行為が一般的に望まない行為と判断できるか否かを基準とする。

#### 第1項第3号関係

- 1 本号は、性的要求と関連づけられた利益・不利益なしに、不快な環境を作り出すことによって、間接的に被害者に不利益を与えることを要件とする。
- 2 「不快の念を抱かせるような環境」とは、学業・職務に専念することができなくなる程度に修学・就労上の環境が不快なものであること又はその程度には至っていないが、特定の性（特に女性）が当該組織・活動等に参入することの障壁となっている場合をいう。
- 3 「不快」の認定に際しては、一事象のみならず、同一被害者が受けた全ての事象を総合して判断するものとする。
- 4 「性的言動及び掲示等」とは、個人に対する歓迎されない性的な働きかけ、特定の性（特に女性）一般を性的欲望の対象として示す言動・掲示又は特定の性（特に女性）にのみ行動を強制したり行為の制限を加えようとする行為をいう。

#### 第1項第4号関係

- 1 本号は、第1号、第2号及び第3号に掲げた形態で、性的要素を伴わないいわゆる「いじめ」行為、本指針によって規定されている対応を妨害するような行為又はセクシュアル・ハラスメントに名を借りて加害者とされる者を陥れる行為等をいう。
- 2 「不利益」には、次のようなものを含むこととする。
  - (1) 進学、進級、成績評価又は教育研究上の指導を受ける際の取扱いにおける不利益
  - (2) 昇任又は配置換等の任用上の取扱いや昇格、昇給又は勤勉手当等の給与上の取扱い等に関する不利益

- (3) 誹謗中傷を受けること、その他事実上の不利益

## 第 2 項関係

本項の具体例は、例示的なものとする。

## 第 3 条

### 第 1 項関係

- 1 「相談」には、セクシュアル・ハラスメント等による被害を受けた本人からのものに限らず、次のようなものも含まれる。
  - (1) 他の者がセクシュアル・ハラスメント等を行っているのを見て不快に感じる学生・職員からの相談
  - (2) 他の者からセクシュアル・ハラスメント等を行っている旨の指摘を受けた学生・職員からの相談
  - (3) 部下等からセクシュアル・ハラスメント等に関する相談を受けた監督者からの相談
- 2 「相談」には複数の相談員で対応するように努めるとともに、遮断された場所で、相談を行う者と同性の相談員が同席できるようにするものとする。
- 3 相談員は、相談者の言い分をよく聞き、事実関係と被害者の状況の把握に努めることとする。
- 4 相談を受けた際に、被害者が非常に混乱していたり、精神的ダメージが大きい場合は、専門家の助言を受けられるようにすることとする。
- 5 事態が非常に切迫していたり、富山大学セクシュアル・ハラスメント等対応委員会（以下「委員会」という。）の開催が困難な場合には、委員会の事後承諾を条件として、委員長との相談で対応を検討することができるものとする。
- 6 被害の継続が予想される場合には、相談員は、事実関係を正確に記録し、可能ならば証拠を保管したり第三者の証言を得られるよう指導することとする。

### 第 2 項関係

「必要な研修」は、委員会において企画することとする。

### 第 3 項関係

「報告」は、文書により行うこととする。

## 第 4 条

### 第 6 項関係

委員の代理出席は、認めない。

## 第 5 条

### 第 1 号関係

「研修・啓発」とは、学内での研修への協力、ポスター・パンフレット等の作成をいう。

### 第 2 号関係

「実態調査・公開」とは、アンケート等の実施、年 1 回程度の報告書の公開をいう。

### 第 3 号関係

- 1 保護・救済及びそれに関する手続きは、被害者の要請があった場合にのみ行うものとする。
- 2 「保護・救済」とは、次のようなものをいう。
  - (1) 被害者のプライバシーの保護とその目撃者等への協力要請
  - (2) 事実関係について当事者間に争いがない場合又は被害が軽微な場合に、被害者の了解を得たうえで、委員会から加害者等に直接的に指導等を行うこと
  - (3) 事実関係について当事者間に争いがある場合又は被害が重大な場合で、当該相談の解決までにある程度の期間が必要と思われるときの、加害者とされる者と被害者との接触の回避
  - (4) 加害者への処分・指導を行った際には、一定期間後に被害者に事態の改善状況を確認すること

### 第 4 号関係

「事実調査」とは、調査委員会から提出された文書による調査結果に基づいて行うこととする。

### 第 5 号関係

本号の「要請」に対して、当該部局長は協力しなければならないものとする。

### 第 6 号関係

「報告」は、文書により行うこととする。

### 第 7 号関係

- 1 被害者の氏名・所属はもちろんとし、被害者を特定できるような内容のものであってはならな

いこととする。

- 2 指導のみで解決したものについては、簡略化した情報（いくつかのカテゴリーへの分類など）と件数のみを公表することとする。
- 3 処分が確定したものについては、事実概要と処分理由並びに処分結果を公表することとする。

## 第6条

### 第2項関係

- 1 処分が確定するまでは、加害者とされる者のプライバシーも保護されなければならない。
- 2 調査委員会の面接調査は、被害者以外の関係者の面接調査に限定するものとし、これには被害者の面接に当たった相談員が加わることができることとする。

### 第3項関係

報告書は、委員会に提出する以前に、被害者に開示することとし、この報告書に対して被害者に異論がある場合は、その旨の文書を委員会に提出することとする。

### 第4項関係

「調査委員会」は、当該事案につき相談者の面接に当たっている相談員以外の委員会の委員若干人で構成することとする。

### 第8条関係

被害者を特定できるような内容は除かれるものとする。

# 富山大学水質保全委員会規則の制定

## 富山大学水質保全委員会規則の制定理由

富山大学における廃液等による環境汚染防止について適切な対策を講じ、管理体制を整備するため、所要の整備を行う。

富山大学水質保全委員会規則を次のとおり制定する。

平成11年7月16日

富山大学長 時 澤 貢

## 富山大学水質保全委員会規則

### （組 織）

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 水質保全センター長
- (2) 各学部から選出された教員 各2人
- (3) 地域共同研究センター及び水素同位体科学研究センターから選出された教員 各1人
- (4) 事務局長

2 前項第2号及び第3号の委員は、各学部長及び各センター長の推薦に基づき、学長が命ずる。

### （任 期）

第4条 前条第1項第2号及び第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### （委員長）

### （設 置）

第1条 富山大学（以下「本学」という。）に、廃液等による環境汚染防止について適切な対策等を講じるため、富山大学水質保全委員会（以下「委員会」という。）を置く。

### （任 務）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を調査・審議し、必要に応じて学長及び部局長に対し、指導、助言又は勧告するものとする。

- (1) 有機廃液及び無機廃液等の処理に関すること。
- (2) 実験排水の水質監視・対策に関すること。
- (3) 排水に係わる教育・指導に関すること。
- (4) その他必要と認める事項



第5条 委員会に委員長を置き、水質保全センター長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を召集し、その議長となる。ただし、委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員が、その職務を代行する。

（委員会の議事）

第6条 委員会は、委員の過半数の出席により成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長がこれを決する。

（意見の聴取）

第7条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（部 会）

第8条 委員会に、廃液処理部会及び排水部会を置く。

2 廃液処理部会は、有機廃液及び無機廃液等の処理に関することについて調査・審議する。

3 排水部会は、実験排水の計測監視、立入調査及び改善措置等に関することについて調査・審議する。

4 各部会は、第3条第1項第2号（各学部1人）及び

第3号の委員（1人）をもって組織する。

5 各部会に部会長を置き、委員長をもって充てる。  
（幹 事）

第9条 委員会及び各部会に幹事を置き、施設課長をもって充てる。

（庶 務）

第10条 委員会の庶務は、施設課において処理する。

#### 附 則

1 この規則は、平成11年7月16日から施行する。

2 この規則施行の際、現に富山大学廃液処理施設運営委員会規則第3条第1項第2号の委員である者は、この規則により委員に任命されたものとみなし、任期は、第4条の規定にかかわらず、平成12年7月14日までとする。

3 この規則施行後、最初に任命される第3条第1項第3号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成12年7月14日までとする。

## 富山大学廃液処理施設規則の全部改正

### 富山大学廃液処理施設規則の改正理由

富山大学廃液処理施設の管理体制を見直し、同施設の運営をより円滑に行うため、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行う。

富山大学廃液処理施設規則の全部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成11年 7 月16日

富山大学長 時 澤 貢

### 富山大学水質保全センター規則

富山大学廃液処理施設規則（昭和61年4月18日制定）の全部を改正する。

（趣 旨）

第1条 この規則は、富山大学水質保全センター（以下「センター」という。）に関する必要な事項を定めるものとする。

（目 的）

第2条 センターは、富山大学（以下「本学」という。）

の教育及び研究に伴い排出される廃液等を円滑に処理するとともに、排水の水質監視等を行い、環境の汚染を防止することを目的とする。

（職 員）

第3条 センターに、水質保全センター長（以下「センター長」という。）及びその他必要な職員を置く。

2 センター長は、本学の教授のうちから第4条に定める運営委員会の推薦に基づき、学長が命ずる。

3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、引き続き4年を超えることができない。

4 センター長は、センターの業務を管理する。

5 職員は、センター長の命を受け、センターの業務に従事する。

(運営委員会)

第4条 センターにセンターの円滑な運営を図るため、富山大学水質保全センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(運営委員会の審議事項)

第5条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 管理運営の基本方針に関すること。
- (2) センター長の推薦に関すること。
- (3) その他管理運営に関する重要事項

(運営委員会の組織)

第6条 運営委員会は、本学水質保全委員会委員をもって組織する。

(委員長)

第7条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもつ

て充てる。

(運営委員会の議事)

第8条 運営委員会は、委員の過半数の出席により成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長がこれを決する。

(庶務)

第9条 センターの庶務は、当分の間、施設課において処理する。

附 則

- 1 この規則は、平成11年7月16日から施行する。
- 2 富山大学廃液処理施設運営委員会規則（昭和61年4月18日制定）は、廃止する。
- 3 この規則施行の際、現に富山大学廃液処理施設長の職にある者は、この規則によりセンター長に任命されたものとみなし、任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、平成12年7月14日までとする。

諸

会

議

第7回開学50周年記念事業委員会（7月1日）

(議 題)

- (1) 開学50周年記念事業について
- (2) その他

(審議事項)

- (1) 風呂燃料の負担割合について
- (2) その他

第3回地域共同研究センター運営委員会（7月1日）

(審議事項)

- (1) 平成11年度当初予算配分（案）について
- (2) その他

第6回将来計画委員会（7月5日）

(審議事項)

- (1) 本学の将来構想・特色について
- (2) その他

第3回入学試験委員会（7月2日）

(審議事項)

- (1) 平成12年度富山大学入学者選要項（案）について
- (2) 平成12年度富山大学学生募集要項（案）について
- (3) 平成11年度高等学校と富山大学との入学試験に関する懇談会実施計画（案）について
- (4) 平成11年度富山大学説明会実施要項（案）について
- (5) 入試情報開示に係るワーキンググループ（仮称）について

第1回保健管理センター運営委員会（7月7日）

(審議事項)

- (1) 平成11年度保健管理センター運営費予算（案）について
- (2) 平成11年度保健管理センター業務計画（案）について
- (3) その他

第7回将来計画委員会（7月12日）

(審議事項)

- (1) 本学の将来構想・特色について
- (2) その他

第2回学寮委員会（7月2日）

## 第 4 回事務協議会（7 月13日）

（審議事項）

当面の諸課題について

## 第 1 回スペース・コラボレーション・システム事業実施委員会（7 月15日）

（審議事項）

- (1) 委員長の選出について
- (2) 副委員長の選出について
- (3) S C S 事業計画について
- (4) S C S 事業の運用方法について
- (5) その他

## 第 4 回部局長懇談会（7 月16日）

（議 題）

- (1) 学内共同利用施設への協力体制について
- (2) 平成12年度概算要求文部省説明の概況について
- (3) 大学運営改善に係る講演会の開催状況について
- (4) 五福地区構内一斉清掃の実施結果について
- (5) 平成12年度入学者選抜要項の公表について
- (6) その他

## 第 4 回評議会（7 月16日）

（審議事項）

- (1) 富山大学部局長会議規則の制定について
- (2) 富山大学セクシュアル・ハラスメント等の防止に関する指針の制定について
- (3) 富山大学水質保全委員会規則の制定及び富山大学廃液処理施設規則の改正について
- (4) その他

## 第 3 回教養教育委員会（7 月16日）

（審議事項）

- (1) 教養教育推進特別委員会からの提案について
- (2) 教養教育全学合宿研究会について
- (3) その他

## 第 1 回年史編纂委員会（7 月16日）

（審議事項）

- (1) 開学50周年記念写真集の発行について
- (2) 50年史編纂の今後の進め方について
- (3) その他

## 第 1 回自己点検評価委員会（7 月22日）

（審議事項）

- (1) 「外部評価に関するアンケート」について
- (2) その他

## 第 8 回将来計画委員会（7 月23日）

（審議事項）

- (1) 本学の将来構想・特色について
- (2) その他

## 第 3 回附属図書館商議会（7 月23日）

（審議事項）

- (1) 平成11年度学生用図書購入費等の予算執行について
- (2) 外国雑誌購入費の取扱いについて
- (3) 富山大学開学50周年記念事業（図書の充実）について
- (4) 電子図書館専門委員会（仮称）の設置について
- (5) その他

## 第 4 回入学試験委員会（7 月29日）

（審議事項）

- (1) 平成12年度富山大学学生募集要項（案）について
- (2) 富山大学入学者選抜健康診断判定基準について
- (3) その他

## 第 1 回就職連絡会議（7 月29日）

（審議事項）

- (1) 平成11年度の就職活動について
- (2) 企業向け大学紹介の作成について
- (3) その他

## 第 2 回学生生活協議会（7 月30日）

（審議事項）

- (1) 文化部会長及び体育部会長の選出について
- (2) 平成12年度入学試験合格者へのダイレクトメールについて
- (3) その他

## 学

## 事

## 平成11年度 文部省在外研究員派遣者の決定

種 類	所 属	職 名	氏 名	主たる滞在地及び当該滞在地の 属する国名並びに派遣先の機関名	調 査 研 究 題 目	派遣期間
海外研究開 発動向調査	教育学部 附属教育 実践研究 指導 センター	助教授	堀田 龍也	ベルファスト (連合王国) クイーンズ大学	情報教育カリキュラムと教材開発 ・流通方法および教師教育に関す る動向調査	12. 2. 21 ) 12. 4. 14

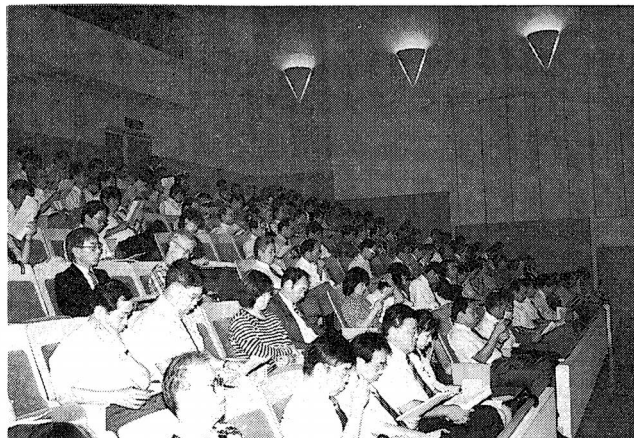
## 大学運営改善特別講演会を開催

高等教育機関に対し、改革のためのあらゆる自助努力が求められている中、7月14日(水)に文部省高等教育局大学課の合田哲雄大学改革推進室室長補佐を講師に迎えて、「大学運営改善特別講演会」が開催されました。

合田室長補佐は、大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について」にある基本理念、学校教育法等の一部改正の趣旨をもとに、「今大学に求められているものは何か、そのために大学は何をなすべきか」を丁寧に講演されました。

会場の黒田講堂ホールには、教員、事務職員合わせて320名が出席し、改めて大学改革の必要性・重要性について理解を深め、講演終了後の質疑応答では、独立行政法人化問題、大学院の在り方、大学運営と学部運営の関

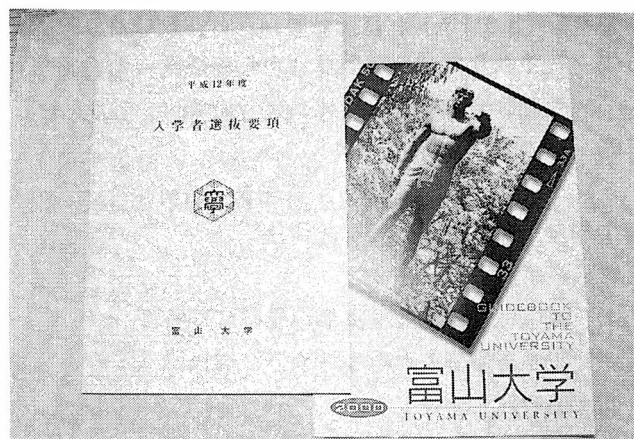
係等について、熱心な意見交換が行われました。



▲ 盛況の講演会場（黒田講堂ホール）

## 平成12年度入学者選抜要項を公表

平成12年度富山大学入学者選抜要項が7月19日(月)に発表されました。昨年度との変更点及び入学者選抜の概要は次のとおりです。



▲ 公表された入学者選抜要項・大学案内



## 平成12年度富山大学入学者選抜要項について ―昨年度と変更点―

### 1 一般選抜

#### (1) 実施方式及び実施日程

日程は、国立大学協会からの「国立大学の入学者選抜についての平成12年度実施要領」に基づく変更であり、年月日並びに曜日の変更が主である。

なお、【 】は、昨年度実施日程である。

○出願期間 平成12年 1 月24日(月)～2 月 2 日(水)

【 1 月25日(月)～2 月 3 日(水)】

○検査期日 前期日程：平成12年 2 月25日(金)

【 2 月25日(金)】

後期日程：平成12年 3 月13日(月)

【 3 月12日(金)】

○合格発表 前期日程：平成12年 3 月 7 日(火)

【 3 月 6 日(土)】

後期日程：平成12年 3 月21日(火)

【 3 月21日(日)】

○入学手続 前期日程：平成12年 3 月14日(火)、15日(水)

【 3 月14日(日)、15日(月)】

後期日程：平成12年 3 月27日(月)

【 3 月27日(土)】

#### (2) 募集人員

##### 入学定員等

入 学 定 員 1,445人【1,492人】

前 期 日 程 876人【 911人】

後 期 日 程 304人【 315人】

専門高校等選抜 8人【 8人】

特 別 選 抜 257人【 258人】

#### (3) 出願資格

「中高一貫教育制度の導入に係る学校教育法等の一部改正について（通知）」の中等教育学校卒業者の大学入学資格（第56条）において、中等教育学校の卒業生について、高等学校の卒業生と同様に、大学への入学資格を有するものとされたことに伴い、「高等学校」を「高等学校若しくは中等教育学校（以下「高等学校等」という。）」としたこと。

#### (4) 入学者選抜実施教科・科目等

①人文学部：基本的に変更なし

②教育学部：改組後の入学者選抜実施教科・科目等

を記載

③経済学部：基本的に変更なし

④理 学 部：基本的に変更なし

⑤工 学 部：基本的に変更なし

### 2 特別選抜

#### (1) 実施方式及び実施日程

【 】は、昨年度実施日程である。

◎ 大学入試センター試験を課さない特別選抜：人文学部推薦入学を除く

○願書受付 平成11年11月 4 日(木)～11月11日(木)

【11月 4 日(水)～11月11日(水)】

○検査期日 平成11年11月24日(水)【11月25日(水)】

○合格発表 平成11年12月 3 日(金)【12月 4 日(金)】

○入学手続 平成12年 2 月17日(木)【 2 月17日(水)】

◎ 大学入試センター試験を課す特別選抜：人文学部推薦入学

○願書受付 平成11年12月13日(月)～12月17日(金)

【12月14日(月)～12月18日(金)】

○検査期日 平成12年 1 月19日(水)【 1 月20日(水)】

○合格発表 平成12年 2 月 5 日(土)【 2 月 6 日(土)】

○入学手続 平成12年 2 月17日(木)【 2 月17日(水)】

#### (2) 募集人員

##### ① 教育学部

##### ◎ 推薦入学

○ 取りやめ

・学校教育教員養成課程理科教育専攻（3人）

・総合教育課程情報教育コース（6人）

・総合教育課程環境教育コース（3人）

・総合教育課程生涯スポーツコース（3人）

○ 実施

・生涯教育課程発達臨床専攻（2人）

・生涯教育課程生涯スポーツ専攻（3人）

・情報教育課程教育情報システム専攻（6人）

・情報教育課程マルチメディア芸術専攻（4人）

##### ◎ 社会人特別選抜

○取りやめ：総合教育課程生涯スポーツコース（若干名）

○実 施：生涯教育課程生涯スポーツ専攻（若干名）

② 経済学部夜間主コース全学科の社会人特別選抜  
募集人員変更

- ・経済学科 14人→10人
- ・経営学科 13人→10人
- ・経営法学科 13人→10人

③ 理学部化学科で推薦入学実施（5人）

④ 工学部全学科で推薦入学募集人員変更

- ・電気電子システム工学科 14人→15人
- ・知能情報工学科 15人→14人
- ・機械知能システム工学科 15人→16人
- ・物質生命システム工学科 24人→27人

(3) 出願資格

「中高一貫教育制度の導入に係る学校教育法等の一部改正について（通知）」の中等教育学校卒業者の大学入学資格（第56条）において、中等教育学校の卒業生について、高等学校の卒業生と同様に、大学への入学資格を有するものとされたことに伴い、「高等学校」を「高等学校若しくは中等教育学校（以下「高等学校等」という。）」としたこと。

(4) 入学者選抜実施教科・科目等

- ① 人文学部：基本的に変更なし
- ② 教育学部：改組後の入学者選抜実施教科・科目等を記載
- ③ 経済学部：基本的に変更なし
- ④ 理学部：基本的に変更なし
- ⑤ 工学部：基本的に変更なし

3 私費外国人留学生選抜

(1) 実施方式及び実施日程

【 】は、昨年度実施日程である。

○出願期間 平成12年1月24日(月)～2月2日(水)

【1月25日(月)～2月3日(水)】

○検査期日 平成12年2月25日(金)【2月25日(木)】

○合格発表 平成12年3月7日(火)【3月6日(土)】

○入学手続 平成12年3月14日(火), 15日(水)

【3月14日(日), 15日(月)】

以 上

## 平成12年度富山大学入学者選抜要項（抄）

## 1. 入学定員（募集人員）

学部	学 科 ・ 課 程 等		入 学 定 員	一般選抜募集人員		専門・高校・ 総合学科 卒業生選抜 (前期日程)	特別選抜募集人員			備 考
				前期日程	後期日程		推薦入学	帰国子女特別選抜	社会人特別選抜	
人文学部	人 文 学 科		65	42	15		7	若干名	1	
	国 際 文 化 学 科		50	32	12		5	若干名	1	
	言 語 文 化 学 科		80	51	20		8	若干名	1	
	計		195	125	47		20	若干名	3	
教育学部	学 校 教 育 系 (教育学・学校心理学・幼児教育専攻)		23	16	7					
	障 害 児 教 育 系 ( 障 害 児 教 育 専 攻 )		7	5	2					
	言 語 ・ 社 会 系 (国語教育・英語教育・社会科教育専攻)		25	18	7					
	自 然 ・ 生 活 系 (数学教育・理科教育・技術教育・家政教育専攻)		25	19	6					
	芸 術 ・ 体 育 系 (音楽教育・美術教育・保健体育専攻)		20	8	4		8			推薦入学は、音楽教育専攻 2名、美術教育専攻3名、 保健体育専攻3名
	小 計		100	66	26		8			
	生 涯 教 育 課 程									
	発 達 臨 床 専 攻		10	5	3		2			
	生 涯 ス ポ ー ツ 専 攻		10	4	3		3		若干名	
	人 間 環 境 専 攻		20	14	6					
	小 計		40	23	12		5		若干名	
	情 報 教 育 課 程									
	教 育 情 報 シ ス テ ム 専 攻		20	10	4		6			
	マ ル チ メ デ ィ ア 芸 術 専 攻		10	4	2		4			
	小 計		30	14	6		10			
	計		170	103	44		23		若干名	
経済学部	昼間主コース									
	経 済 学 科		155	100	31		24	若干名		
	経 営 学 科		120	76	24		20	若干名		
	経 営 法 学 科		100	64	20		16	若干名		
	小 計		375	240	75		60	若干名		
	夜間主コース									
	経 済 学 科		20	3	7				10	
	経 営 学 科		20	3	7				10	
理学部	経 営 法 学 科		20	3	7				10	
	小 計		60	9	21				30	
	計		435	249	96		60	若干名	30	
	数 学 学 科		50	28	6		15	若干名	1	
	物 理 学 科		40	26	6		7	若干名	1	
	化 学 学 科		35	22	7		5	若干名	1	
	生 物 学 学 科		35	23	5		5	若干名	2	
	地 球 科 学 学 科		40	29	9			若干名	2	
工学部	生 物 圏 環 境 科 学 学 科		30	19	5		5	若干名	1	
	計		230	147	38		37	若干名	8	
	電 気 電 子 シ ス テ ム 工 学 学 科		90	54	18	2	15	若干名	1	
	知 能 情 報 工 学 学 科		80	47	16	2	14	若干名	1	
	機 械 知 能 シ ス テ ム 工 学 学 科		90	54	17	2	16	若干名	1	
	物 質 生 命 シ ス テ ム 工 学 学 科		155	97	28	2	27	若干名	1	
	計		415	252	79	8	72	若干名	4	
	合 計		1,445	876	304	8	212	若干名	45	

## 2. 平成12年度富山大学入学者選抜方法等

## (1) 一般選抜（前期日程）

学部・学科名			選抜方法等		個 別 学 力 検 査 等							専 門 高 校 ・ 総 合 学 科 卒 業 生 選 抜					個 別 学 力 検 査 等 の 日 程	備 考  (欠員の補充の方法等)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
			個 別 学 力 検 査 を 課 す る	実 技 検 査 等				2 段 階 選 抜			個 別 学 力 検 査 を 課 す る	実 技 検 査 等				募 集 人 員																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
				実 技 検 査 を 課 す る	面 接 を 行 う	小 論 文 を 課 す る	外 国 語 に お け る リ ス ニ ン グ テ ス ト を 課 す る	主として、調査書 の内容と大学入試 センター試験の成 績により第1段階 選抜を行い、その 合格者について更 に必要な検査等を行 う	第1段階の 選抜による 合格者数	定員 に 対 する 倍 率		そ の 他	実 技 検 査 を 課 す る	面 接 を 行 う	小 論 文 を 課 す る					外 国 語 に お け る リ ス ニ ン グ テ ス ト を 課 す る																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
人 文 学 部	人 文 学 科																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							



選抜方法等   		
---	--	--

(注) 1. ○印は、当該検査等を課すこと又は該当することを示す。

2. ×印は、当該検査等を課さないこと又は該当しないことを示す。

3. 調査書に㊤標示を希望する。(入学者選抜方法の研究資料として利用するため)

## (2) 一般選抜（後期日程）

学部・学科名			選抜方法等		個 別 学 力 検 査 等										専門高校・総合学科 卒 業 生 選 抜						個別 学力 検査 等 の 日 程	備 考  (欠員の補充の方法等)	
			個別 学力 検査 を課 する	実技検査等				2 段 階 選 抜						個別 学力 検査 を課 する	実技検査等				募 集 人 員				
				実 技 検 査 を 課 す る	面 接 を 行 う	小 論 文 を 課 す る	外国語 における リスニング テストを課 する	主として、調査書 の内容と大学入試 センター試験の成 績により第1段階 選抜を行い、その 合格者について更 に必要な検査等を行 う	第1段階の 選抜による 合格者数		実 技 検 査 を 課 す る	面 接 を 行 う	小 論 文 を 課 す る		外国語 における リスニング テストを課 する								
									定員に 対する 倍率	そ の 他													
人文学部	人 文 学 科																						
	国 際 文 化 学 科		×	×	×	○	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×					欠員補充の方法等は、 9月下旬頃に発表予 定の学生募集要項に 記載する。	
	言 語 文 化 学 科																						
教育学部	学 校 教 育 系	教育学専攻																					3  月  13  日  (月)
		学校心理学専攻	×	×	×	○	×																
		幼児教育専攻																					
	障 害 児 教 育 系	障害児教育専攻	×	×	×	○	×																
		国語教育専攻																					
		言語・社会系	英語教育専攻	×	×	×	○	×															
	自然・生活系	社会科教育専攻																					
		数学教育専攻																					
		理科教育専攻	×	×	○	×	×																
		技術教育専攻						×		×	×	×	×	×	×	×	×	×					
	芸 術 ・ 体 育 系	家政教育専攻																					
		音楽教育専攻																					
		美術教育専攻	×	○	×	×	×																
	生涯教育課程	保健体育専攻																					
		発達臨床専攻	×	×	×	○	×																
		生涯スポーツ専攻	×	○	×	×	×																
情報教育課程	人間環境専攻	×	×	×	○	×																	
	教育情報システム専攻	×	×	×	○	×																	
	マルチメディア芸術専攻	×	×	○	○	×																	

欠員補充の方法等は、  
9月下旬頃に発表予  
定の学生募集要項に  
記載する。

3  
月  
13  
日  
(月)

選抜方法等  		
---	--	--

(注) 1. ○印は、当該検査等を課すこと又は該当することを示す。

2. ×印は、当該検査等を課さないこと又は該当しないことを示す。

3. 調査書に㊤標示を希望する。(入学者選抜方法の研究資料として利用するため)

## (3) 特別選抜

選抜方法等				推 薦 入 学								帰国子女・社会人等のための特別選抜			備 考 (欠員の補充の方法等)	
				入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し調査書を主な資料として判定する								推薦入学募集人員	帰国子女	中国引揚者等子女		社会人
				個別学力検査を免除し、大学入試センター試験を課する	個別学力検査及び大学入試センター試験を免除する	実 技 検 査 等										
実技検査を課する	面接を行う	小論文を課する	外国語におけるリスニングテストを課する			その他	推薦入学募集人員	帰国子女	中国引揚者等子女	社会人						
学部・学科名																
人文学部	人文学部			○	×	×	×	○	×	×	7人	○	×	○		
	国際文化学科										5人					
	言語文化学科										8人					
教育学部	学校教育系	教育学専攻		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
		学校心理学専攻														
		幼児教育専攻														
	障害児教育系	障害児教育専攻		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	言語・社会系	国語教育専攻		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
		英語教育専攻														
		社会科教育専攻														
	自然・生活系	数学教育専攻		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
		理科教育専攻														
		技術教育専攻														
		家政教育専攻														
	芸術・体育系	音楽教育専攻		×	○	○	○	×	×	×	2人	×	×	×		
		美術教育専攻									3人					
		保健体育専攻									3人					
生涯教育課程	発達臨床専攻			×	○	×	○	×	×	×	2人	×	×	×		
	生涯スポーツ専攻										3人					
	人間環境専攻										×					
情報教育課程	教育情報システム専攻			×	○	×	○	○	×	×	6人	×	×	×		
	マルチメディア芸術専攻										4人					



選抜方法等  学部・学科名			推 薦 入 学								帰国子女・社会人等のための特別選抜		備 考	
			入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し調査書を主な資料として判定する								推薦入学募集人員	婦 国 中 社 子 引 会 女 揚 者 等 子 女 人		
			個別学力検査を免除し、大学入試センター試験を課する	個別学力検査及び大学入試センター試験を免除する	実 技 検 査 等					その他				
実技検査を課する	面接を行う	小論文を課する			外国語におけるリスニングテストを課する									
経済学部	昼間主コース	経済学科	×	○	×	○	○	×	×	12人	○	×	×	推薦入学について  各学科の募集人員欄中、上段は職業教育を主とする学科以外の学科を、また、下段は職業教育を主とする学科を対象とした募集人員をそれぞれ示す。
		経営学科								12人				
		経営法学科								10人 10人 8人 8人				
	夜間主コース	経済学科	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○		
		経営学科												
		経営法学科												
理学部		数学科	×	○	×	○	○	×	×	15人	○	×	○	
		物理学科	×	○	×	○	○	×	×	7人				
		化学科	×	○	×	○	○	×	×	5人				
		生物学科	×	○	×	○	○	×	×	5人				
		地球科学科	×	×	×	×	×	×	×					
		生物圏環境科学科	×	○	×	○	○	×	×	5人				
工学部		電気電子システム工学科	×	○	×	○	○	×	×	9人	○	×	○	推薦入学について  ① 面接には、基礎学力に関する試問を含む。 ② 各学科の募集人員欄中、上段は普通科・理数科を、また、下段は専門教育を主とする学科(工業)及び総合学科を対象とした募集人員をそれぞれ示す。
		知能情報工学科								6人				
		機械知能システム工学科								8人 6人 10人 6人 16人 11人				
		物質生命システム工学科												

- (注) 1. ○印は、当該検査等を課すこと又は該当することを示す。  
 2. ×印は、当該検査等を課さないこと又は該当しないことを示す。  
 3. 調査書に㊤標示を希望する。(入学者選抜方法の研究資料として利用するため)

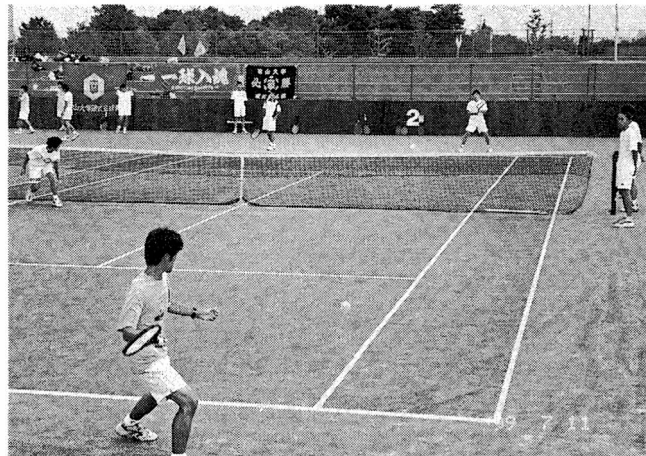
# 人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
採 用	11. 8. 1	山本 浩司		教 授 理学部（化学科合成有機化学）
	〃	鳥養 祐二		講 師 水素同位体科学研究センター
昇 任	11. 7. 16	山木 宏明	文部省大臣官房人事課福祉班福祉第一係長	庶務部人事課長
	11. 8. 1	太田 正信	九州大学経理部主計課長	経理部長
	〃	松郷 誠一	助教授 工学部 （物質生命システム工学科生物応用化学）	教 授 山梨大学 工学部
配 置 換	11. 7. 16	青木 正克	庶務部人事課長	神戸大学庶務部人事課長
	11. 8. 1	大谷 潔	経理部長	静岡大学経理部長
辞 職	11. 7. 31	安村千恵子	臨時用務員（教育学部炊婦）	辞職
退 職	11. 7. 14	松井 輝代	臨時用務員（教育学部炊婦）	平成11年 7 月13日限り退職
	〃	堰免 芳子	〃 （ 〃 ）	〃
	11. 7. 29	近藤 俊彦	事務補佐員（附属図書館情報サービス課）	平成11年 7 月28日限り退職
	〃	高山 恭一	〃 （ 〃 ）	〃
	〃	稲葉 智裕	〃 （ 〃 ）	〃
	〃	望月 昇	〃 （ 〃 ）	〃
	〃	島先 厚至	〃 （ 〃 ）	〃
	〃	甲斐 英高	〃 （ 〃 ）	〃
	〃	中根 一剛	〃 （ 〃 ）	〃
	〃	加藤 奏	〃 （ 〃 ）	〃
	11. 7. 31	桑名 春雄	臨時用務員（教育学部作業員）	平成11年 7 月30日限り退職
	〃	山崎 正裕	技術補佐員（経済学部）	〃
	〃	中山 拓也	技術補佐員（総合情報処理センター）	〃
	〃	沖野 浩二	〃 （ 〃 ）	〃
	〃	園田 敦	〃 （ 〃 ）	〃
	〃	宮下 友宏	〃 （ 〃 ）	〃
	〃	湯辺美由紀	〃 （ 〃 ）	〃
	〃	高橋 純	〃 （ 〃 ）	〃
	〃	立川 智之	〃 （ 〃 ）	〃
育児休業	11. 8. 1	星野由紀子	教務職員 工学部 （物質生命システム工学科応用化学）	職務復帰
併 任	11. 8. 1	駒城 鎮一	教 授（経済学部）	評 議 員（～13. 3. 31）
	〃	松川 滋	〃 （ 〃 ）	〃 （～13. 7. 31）
職務命令	11. 7. 16	加賀谷重浩	助 手（工 学 部）	廃液処理施設勤務を免ずる 水質保全センター勤務を命ずる

## 学 内 諸 報

## 第51回北陸地区国立大学体育大会が開会

7月10日(土)、本学が当番校として第51回北陸地区国立大学体育大会の開会式を黒田講堂で開催しました。開会式は、福井大学、福井医科大学、金沢大学、富山医科薬科大学、高岡短期大学及び本学の体育系サークルから学生約300名が参加し、時澤学長から大会長挨拶を受けました。同大会は6月13日から7月11日までの7日間、各競技場で22競技種目にわたって開催され、約2,400名の学生が日頃の練習成果をいかに発揮しました。



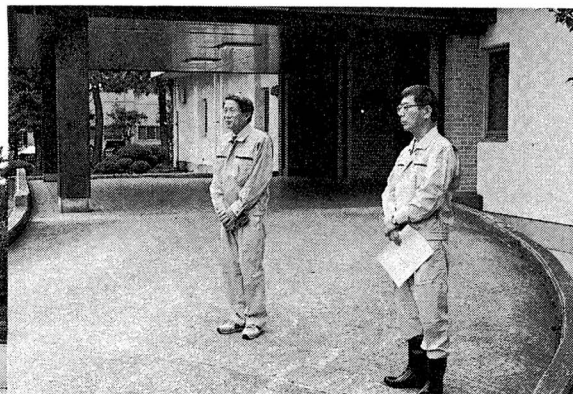
▲ 硬式テニスの競技風景

## 五福キャンパスの一斉清掃を実施

—413名の教職員・学生が一斉清掃に参加—

本学では、「教育研究の場にふさわしい学園環境の維持」を目的に毎年五福キャンパスの一斉清掃を年2回実施することとしています。本年度の第1回清掃は7月12日(月)午後3時から約1時間にわたり実施しました。

当日は、あいにくの梅雨空で降雨が心配されましたが、時澤学長を先頭として、教職員・学生413名が参加し、キャンパス内に捨てられた空缶・吸殻等ゴミの収集と溝の清掃、除草等の作業を行い、心地よい汗を流しました。



▲ 挨拶する時澤学長(上)／事務局前に集合した職員(下)

## スペース・コラボレーション・システム事業の推進体制が整う

－第1回実施委員会で、事業計画等を承認－

マルチメディア社会に対応するため、文部省は各大学に衛星通信を使用するスペース・コラボレーション・システム（以下「SCS」という。）の計画的整備を進めていますが、本学では平成10年度補正予算によりSCS関連機器の整備が予算措置され、既に総合情報処理センター4階のソフトウェア演習室でSCSが利用可能となっています。

7月15日(木)開催の第1回SCS事業実施委員会においては、委員長に久保文夫理学部教授が選出され、併せて事業計画等が承認されました。これにより、本学のSCS事業の推進体制が整いましたので、今後、授業や研究等でSCSが大いに利用されることが期待されます。（お問い合わせは、入試課教務係まで）



▲ 総合情報処理センター屋上のパラボラアンテナ

## 工学部が(社)日本工学教育協会業績賞を受賞



▲ 表彰状と記念のトロフィーを  
手にする宮下工学部長

本学工学部は、平成6年度から全国に先駆けて、新潟大学工学部及び長崎大学工学部と共同で取り組んできた「『専門高校卒業生を対象としたカリキュラム編成及び教育方法』の教育実践」の成果が認められ、7月19日(月)社団法人日本工学教育協会（吉川弘之会長）から業績賞を受賞しました。

工学部では、平成元年度から工業系高校からの推薦入試を実施してきており、平成7年度からこれ等工業系高校からの入学生を対象に数学、物理、化学及び英語の4科目についての補習教育を実施するとともに、その教育効果等についても上記3大学でプロジェクトを組み調査研究し、その結果を報告書にまとめ公表してきました。また、平成9年度入試からは定員枠を設けた専門高校卒業生選抜を実施するなど専門高校卒業生の受入促進を図ってきたものであり、今回の受賞は、これらのことが評価されたものといえます。

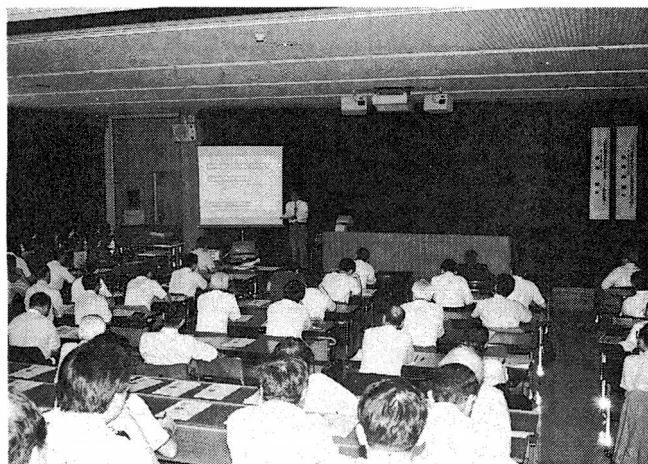


## 地域共同研究センターが交流振興会の談話会を開催

地域共同研究センターでは、7月21日(木)交流振興会の平成11年理事会、総会の後、午後2時40分から工学部106講義室で交流振興会談話会を開催しました。談話会は講師2名を迎えて行われ、最初に、北陸電力株式会社取締役工務部長 長坂秀雄氏(地域共同研究センター客員教授)から「ベンチャー企業を中心とした産学協同研究について」と題した講演があり、引き続き、日本開発銀行調査役 菊池 伸氏から「大学の研究成果の社会への還元-TLOの役割-」について講演がありました。

出席した企業関係者、教職員約100名は、長坂講師による東京都内の企業との共同研究の実例紹介や菊池講師の我が国におけるTLO設立の動き、望まれる日本版TLOについて具体例を例示した説明と、TLOの設立には「学内全体としての取り組みが必要」との説明にメモを取るなど熱心に聴講しました。

談話会終了後、工学部大会議室で産学交流会が開催され、熱心な意見交換が行われました。



▲ 盛況の講演会場(工学部大講義室)

## 高等学校の進路指導担当教諭との懇談会を開催



▲ 盛況となった懇談会(黒田講堂会議室)

7月22日(木)「平成11年度高等学校と富山大学との入学試験に関する懇談会」が黒田講堂において開催されました。

この懇談会は、本学の入試内容や教育内容などについて理解を得ることを目的として毎年開催しているもので、富山県のほか石川、福井及び岐阜県の高等学校進路指導担当教諭(85人)と、能登谷学長補佐(学生部長)をはじめ各学部入試関係委員など本学関係者(25人)が出席しました。

懇談会では、本学から平成12年度富山大学入学試験の概要や各学部(学科・課程)の特色などについて説明の後、高等学校側から本学に対する様々な質問・要望等が寄せられるなど活発な意見交換が行われ、充実した会議となりました。

海

外

渡

航

者

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
外国出張	工学部	教授	吉 村 敏 章	ア メ リ カ 合 衆 国	有機硫黄化学に関する研究	11. 7. 1 ) 12. 4. 30
	人文学部	教授	小 谷 仲 男	オ ラ ン ダ	第15回南アジア考古学国際学会に 出席, 研究発表	11. 7. 1 ) 11. 7. 11
	教育学部	教授	大 森 克 史	連 合 王 国	第 4 回国際応用数理会議 ( I C I A M 99) に出席, 発表, 資料収集	11. 7. 1 ) 11. 7. 12
	経済学部	講 師	近 藤 和 哉	フ ラ ン ス	フランス臓器移植法制の調査・研 究	11. 7. 6 ) 11. 10. 1
	理学部	助教授	酒 井 英 男	ロ シ ア	バイカル湖での古地磁気調査及び 研究打合せ	11. 7. 9 ) 11. 7. 23
	工学部	教授	熊 澤 英 博	大 韓 民 国	大量排出CO <sub>2</sub> の分離・回収技術 の調査研究	11. 7. 11 ) 11. 8. 8
	教育学部	教授	佐 藤 幸 男	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	極小国家の「国家的アイデンティ ティ」の社会的・経済的・文化的基盤 に関する研究の調査・資料収集	11. 7. 12 ) 11. 8. 2
	工学部	教授	坂 井 純 一	ロ ド イ ツ 連 邦	宇宙プラズマにおける非線形現象 についての共同研究	11. 7. 15 ) 11. 8. 9
	人文学部	助教授	呉 人 恵	ロ シ ア	コリャーク語資料収集	11. 7. 19 ) 11. 8. 27
	理学部	助教授	大 藤 茂	中 国	日本海形成前の東アジアの地体構 造の復元に関する地質調査	11. 7. 24 ) 11. 8. 4
	理学部	助教授	藤 浩 明	ア メ リ カ 合 衆 国	K H - 99 - 3 次研究航海乗船	11. 7. 24 ) 11. 8. 28
	工学部	教授	塩 澤 和 章	ア メ リ カ 合 衆 国 ア カ 連 イ 合 タ 王 リ 国 ダ 国 ア	表面創製による疲労信頼性向上に 関する研究討論及び研究資料の収 集	11. 7. 25 ) 11. 9. 25
	工学部	教授	作 井 正 昭	中 国	P E D S ' 99国際会議に出席, 研 究発表	11. 7. 25 ) 11. 7. 30
	工学部	教授	森 克 徳	ス ウ ェ ー デ ン	分子性結晶及び酸化物超伝導体の 物理と化学の国際会議に出席, 研 究発表	11. 7. 27 ) 11. 8. 11
	理学部	助 手	石 崎 泰 男	ロ シ ア	国後島爺爺岳火山のロシア研究者 との共同調査	11. 7. 28 ) 11. 8. 6
	理学部	助教授	池 田 榮 雄	ド イ ツ 連 邦	Equadiff ' 99国際会議に出席, 研究発表	11. 7. 30 ) 11. 8. 9

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
外 国 出 張	人文学部	教 授	藤 本 幸 夫	大 韓 民 国	朝鮮本の調査	11. 7. 30 ) 11. 8. 6
	工 学 部	教 授	升 方 勝 己	ロ シ ア	宇宙プラズマにおける非線形現象 についての共同研究	11. 7. 31 ) 11. 8. 9
	工 学 部	教 授	川 田 勉	ロ シ ア	宇宙プラズマにおける非線形現象 についての共同研究	11. 7. 31 ) 11. 8. 9
	教育学部	教 授	渡 邊 信	ア メ リ カ 合 衆 国	第16回国際植物科学会議に出席, 発表	11. 7. 31 ) 11. 8. 13
	理 学 部	教 授	山 田 恭 司	ア メ リ カ 合 衆 国	第16回国際植物科学会議に出席, 研究発表	11. 7. 31 ) 11. 8. 14
海 外 研 修	人文学部	講 師	林 夏 生	大 韓 民 国	韓国国際政治学会1999年度研究大 会に出席	11. 7. 9 ) 11. 7. 12
	経済学部	助教授	岡 村 與 子	ス ペ イ ン	グローバル化とエマージング経済 に関する国際会議に出席	11. 7. 9 ) 11. 7. 15
	経済学部	教 授	飯 田 剛 史	カ ナ ダ	韓国系カナダ人の民族関係に関す る資料収集及び研究打合せ	11. 7. 9 ) 11. 7. 18
	人文学部	教 授	東 田 雅 博	連 合 王 国	帝国とジェンダーの関係性につい ての史料・資料の調査・研究	11. 7. 20 ) 11. 8. 3
	人文学部	助教授	葉 柳 靖 子	ス イ ス	現代ドイツ語圏文学に関する資料 収集	11. 7. 28 ) 11. 10. 5
	人文学部	助教授	上 野 隆 三	中 国	外国人留学生に対する中国語指導 法の研究, 資料収集	11. 7. 28 ) 11. 8. 21
	理 学 部	助 手	渡 邊 了	オ ラ ン ダ	岩石の変形特性に対する水の影響 についての共同研究	11. 7. 31 ) 11. 9. 25
	教育学部	教 授	中 村 義 朗	中 国	研究打合せ	11. 7. 31 ) 11. 8. 4
	理 学 部	助 手	辻 瑞 樹	イ ン ド	第26回国際行動学会議に出席, 基 調講演	11. 7. 31 ) 11. 8. 11

## 職 員 消 息

## 《住所変更》

部 局	職	氏 名
教 育 学 部	附属幼稚園 教 諭	石 倉 卓 子
経 済 学 部	庶 務 係	杉 田 昇

## 《改 姓》

部 局	職	氏 名	旧 姓
教 育 学 部	附属幼稚園 教 諭	石 倉 卓 子	四 宮

## 主 要 行 事

## 本 部

- 7 月 1 日 第 7 回開学50周年記念事業委員会  
第 3 回教養教育委員会企画専門委員会
- 2 日 第 3 回入学試験委員会  
第 2 回学寮委員会  
平成10年度教育改善推進費（学長裁量経費）  
実施報告書説明会
- 5 日 第 6 回将来計画委員会
- 7～8 日 概算要求ヒアリング（文部省）
- 7～8 日 接遇指導者養成研修（人事院中部事務局）
- 7～30日 職員定期健康診断
- 8 日 人事関係事項説明聴取（文部省）  
第12回セクシュアル・ハラスメント等対応検討委員会
- 10日 第51回北陸地区国立大学体育大会開会式（黒田講堂）
- 12日 五福地区構内一斉清掃  
第 7 回将来計画委員会
- 13日 第 4 回事務協議会  
第 4 回大学教育検討委員会  
第 2 回教養教育委員会実施専門委員会

## 新規学卒者雇用フォーラム（第一イン新湊）

- 14日 第 1 回教務委員会専門委員会  
第 4 回国際交流委員会留学生部会  
大学運営改善特別講演会
- 15日 第 1 回 S C S 事業実施委員会
- 16日 第 4 回部局長懇談会  
第 4 回評議会  
第 3 回教養教育委員会
- 19日 将来計画委員会ワーキンググループ会議
- 22日 平成11年度高等学校と富山大学との入学試験に関する懇談会  
第 2 回自己点検評価委員会
- 23日 第 8 回将来計画委員会  
第 1 回学生生活協議会体育部会
- 27日 第 5 回自己点検評価委員会管理運営専門委員会
- 27～28日 文部省会計実施監査
- 29日 第 1 回就職連絡会議  
第 4 回入学試験委員会
- 30日 第 2 回学生生活協議会  
第 5 回大学教育検討委員会

## 人文学部

- 7月1日 学部教務委員会  
 5日 学部自己点検評価委員会  
 学部入学者選抜方法検討委員会  
 7日 教授会  
 教授会（人事）  
 9日 学部将来計画委員会  
 人文科学研究科教務等検討委員会  
 14日 学部将来計画委員会  
 独立大学院研究科（博士課程）設置に関する  
 人文学部及び経済学部合同委員会  
 15日 学部国際交流委員会  
 16日 学部入学者選抜方法検討委員会  
 学部広報委員会  
 教授会  
 研究科委員会  
 22日 独立大学院研究科（博士課程）設置検討委員会  
 23日 学部将来計画委員会  
 26日 学部自己点検評価委員会  
 学部予算委員会  
 28日 学部教務委員会

## 教育学部

- 7月1日 附属学校プール開き  
 6日 附属養護学校学校説明会（小学部）  
 7日 学部入学試験委員会  
 学部自己点検評価委員会  
 附属学校水泳指導に際しての救急法講習会  
 8日 附属養護学校学校説明会（中学部・高等部）  
 12日 学部入学試験委員会  
 学部就職指導委員会  
 13日 職員健康診断  
 14日 学部学生生活委員会  
 教授会  
 人事教授会  
 17日 附属小学校第1学期終業式  
 18日 附属中学校、附属養護学校及び附属幼稚園第  
 1学期終業式  
 19日 紀要編集委員会  
 21日 学部教務委員会  
 26日 学部就職指導委員会

- 28日 学部将来計画委員会  
 平成11年度学校図書館司書教諭講習

(8月12日まで)

公開講座「硬式テニス（初心者）コース」

(8月1日まで)

- 29日 学部図書委員会  
 30日 学部予算委員会

## 経済学部

- 7月2日 学部自己点検評価委員会  
 6日 学部教務委員会  
 7日 学部入学試験委員会  
 人事教授会  
 研究科委員会  
 教授会  
 14日 独立大学院博士課程設置に伴う合同打合せ会  
 21日 情報処理委員会  
 27日 学部教務委員会  
 就職指導委員会  
 学部学生生活委員会  
 29日 人事教授会  
 研究科委員会  
 教授会  
 30日 学部自己点検評価委員会

## 理学部

- 7月1日 学部自己点検評価委員会  
 5日 学部予算委員会  
 8日 学部入試改善委員会  
 12日 学部教務委員会  
 13日 学部予算委員会  
 14日 理工学研究科博士前期課程部会理学部会  
 教授会  
 教授会（人事）

## 工学部

- 7月1～2日  
 第23回国立大学53工学系学部長会議運営委員会（名古屋工業大学）  
 第37回中部圏国立大学工学系事務協議会（名古屋大学）

## 5日 学科長会議

自己点検評価に係る検討委員会

温交会役員会

## 6日 教官要覧編集委員会

## 7日 工学部3年次編入学試験（学力選抜）

## 8日 将来計画に係る検討委員会

## 9日 学生生活委員会

大学院改組に係る検討委員会

入学試験検討委員会

## 12日 学部教務委員会

自己点検評価に係る検討委員会

## 13日 教授会

専任教授会

理工学研究科博士前期課程工学部会

工学研究科博士後期課程委員会

理工学研究科博士後期課程部会

理工学研究科委員会

## 14日 授業終了

## 15日 係長連絡会

## 16日 機器分析センター運営委員会

## 19日 大学院改組に係る検討委員会

## 21日 博士学位論文審査等に関する打合せ会

## 22日 将来計画に係る検討委員会

## 26日 大学院改組に係る検討委員会

## 27～28日 工学部公開講座（体験講座）「いろいろな流れの科学－イメージング－」

## 28～30日 工学部外国人留学生実地見学旅行

## 30日 工場運営委員会

学部運営委員会

職員厚生事業「ビアガーデン」（名鉄トヤマホテル）

## 附属図書館

## 7月2日 第1回写真集作成小委員会

16日 第1回年史編纂委員会

23日 第3回附属図書館商議会

## 地域共同研究センター

## 7月1日 第3回運営委員会

21日 平成11年度地域共同研究センター交流振興会  
理事会・総会・談話会

26～30日 先端技術研修（機械加工コース）

## 総合情報処理センター

## 7月23日 第1回広報研修専門委員会

## 水素同位体科学研究センター

## 7月5日 第5回運営委員会（人事に関する運営委員会）

## 保健管理センター

## 7月7日 第1回運営委員会



▲ 合同運動会（附属学校）

編集 富山大学庶務部庶務課  
富山市五福3190  
印刷所 あけぼの企画株式会社  
富山市住吉町1丁目5-18  
電話（424）1755（代）